

2018年10月 地域自然情報研究会

土壌の生物多様性を活かす農法による 持続可能な農業の可能性

逸見 一郎 氏

((一社)自然と文化創造コンソーシアム代表理事, NPO法人 地域自然情報ネットワーク 副理事長)

我が国における産業として農業は、戦後、最もその耕地面積(生産高)、就労者人員が著しく減少した構造的な衰退産業でした。また、世界的にも化学肥料・農薬の多用における土壌の劣化、連作障害、病虫害の多発などが問題になっています。私たちは、その衰退の一番の要因は、農地土壌中の生物多様性の保全、土壌形成における地域資源の循環利用をおろそかにしてきた事であると考えています。

これまで自然生態系における「目に見える生物多様性」の保全には、様々な法律・条令が制定され事業化され、私たちもその保全や特に二次的自然の保全活用に努めてきました。しかし、里山地域など、これらと同所的に存在した農地の土壌中の生物多様性は、生態系サービスの根幹をなすものの一つでありながら、法律や条令、事業にて保全されることなく、その実態も把握されてきませんでした。

私たちは、土壌中の微生物等の多様性・活性を科学的に把握すること、有機物資源を正しく循環利用することで、土壌中の生物多様性・活性の質を高めることができることを実地試験で明らかにしてきました。これは、正しく行えば、どの地域でも導入することができる方法であり、これにより高収量・高品質・低コストでさらに持続可能な農業を世界で展開できると考えています。今回は、この「生物多様性農業農法」の考え方や導入事例について紹介致します。

開催日時

2018年10月13日(土) 13:00~15:00

参加費

500円(ただし、GCN会員は無料)

お申し込み・お問い合わせ

当NPOのホームページ(下記)よりお申し込み下さい。

<http://www.geo-eco.net/>

NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局
(gcnken@gmail.com 担当: 梶並)

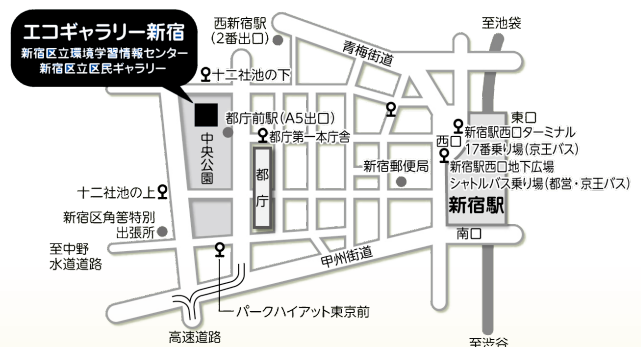
地域自然情報研究会とは?

当NPOにて2006年から、年3~4回のペースで開催している研究会で、地生態学・景観生態学などにかかわる調査や研究、GIS情報整備や公開にかかわることなど、幅広い分野の方から話題を提供いただいています。意見や質問が飛び交う中から、新たな発想が生まれる場とするために、分野に限らず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお本研究会では、皆様の話題提供も、随時、受け付けています。ご興味のある方は是非ともご連絡下さい。

会場案内

新宿区環境情報学習センター 2F 研修室
(エコギャラリー新宿)



NPO法人
地域自然情報ネットワーク
The Geoecological Conservation Network

NPO法人地域自然情報ネットワーク (GCN) は
地生態学の視点から自然環境の保全を提案します

なお、GCNにつきましては、当会ホームページをご覧ください。

<http://www.geo-eco.net/>